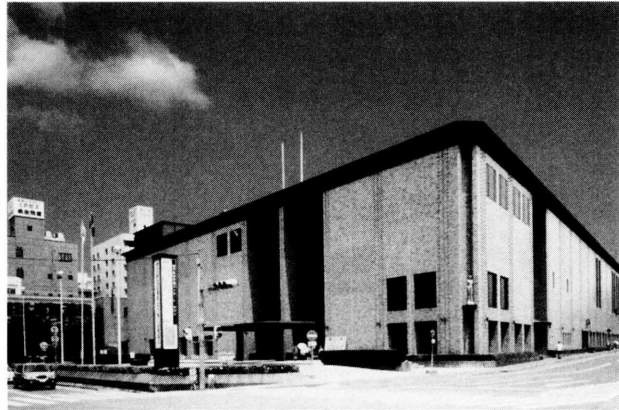


岩手県民会館

所 有 者 岩手県
設 計 者 株式会社 佐藤総合計画
施 工 者 鹿島建設株式会社
維持管理者 財団法人 岩手県文化振興事業団
所 在 地 岩手県盛岡市市丸13番地
竣 工 1973年 3月25日



岩手県民会館は1971年に開催された岩手国体記念事業の一環として計画され、将来を見据えた本格的なホールを持つ文化施設を目指して建設されたものである。開館26年後の今日も利用率85%、年平均41万3000人の利用者数を得、まさしく東北地域の芸術文化の拠点として重要な役割を担い続けている。

建設地は北の古都、盛岡市の中央を流れる川面と紅葉の木々に包まれた県庁舎の一角に位置し、渋い色調のモニュメンタルな建物として静かに毅然と佇み、既存街区にも完全に馴染み同化している。

当会館の主目的である大ホールは将来を考えた1人当たりの気積を10㎡として計画され、響きのある東北地方屈指のホールとして高い評価を得ている。

又建設に当たっては、常水面の高い中津川に対する慎重な基礎工法の選択、大きな耐力が得られる十分な壁量、彫の深い開口部のデザイン、亀裂防止のための壁横筋への配慮、タイルの剝離防止対策など寒冷地に建つ施設として、今日においても十分効果のある計画となっている。

設備面においても種々の目的を持つ複合施設として空調のゾーニングなど細分化され、全熱交換器、排熱回収等とあわせて省エネルギー化が図られている。

維持保全に当たっても当初の設計思想に基づき、年次計画に従って診断調査、施設整備が実施されている。特にホールの舞台設備の更新、電気設備、機械諸設備の改修等が、時代のニーズに対応するよう行われ、今日も極めて良好な状態で運営されている。

弱者に対する配慮は当初からスロープなどが設置されていたが、特に平成4年から身障者対策として客席椅子、トイレなどが全面的に改修され既存建物内でのエレベーターの増設は動線的にも平面計画上も、又室内のデザイン上からも最も難しいことであるが見事に解決されている。

厳寒な気象条件に対処し、周辺環境にもすっきり融合し、地域社会との文化交流の拠点として又社会の共有財として、地域の人々に今も広く親しまれており、まさしくBELCA賞の受賞にふさわしい建築と言えるであろう。